

平成 31 年度矢作川流域圏地域連携業務
第 3 回編集委員会 メモ

日時:令和元年 11 月 7 日(木) 15:00~16:30

場所:メイホーエンジニアリング名古屋支店

編集委員:浜口、洲崎、近藤、高橋、中田

打合せ方式:会議

資料:第 2 回編集委員会メモ、事例集も視野に入れた年表(近藤作成)、
事例集対象団体カテゴリ分け整理表(洲崎作成)



【1】流域圏年表

- ・矢作川をとりまく空間がどうなっていったのか？が分かればよい(事務局作成のものは、あとは肉付け程度)
- ・年表の形式は三部会まったく同じでなくてよいのではないか
- ・山部会は矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)の年表があるので参考になるだろう

【2】流域圏懇談会 10 年のふりかえり

- ・「こんなことしてきたね」という話し合いはできているか？→山・川、先日の海部会 WG でもやっていない
- ・【まとめの会】各部会で、振り返りの文章をまとめるために、まとめのフリートークをしてもらい、足りないものを付け加えてもらう
- ・【まとめの会】「他部会に見てもらいたい内容・ところ」について話してもらう
- ・山部会では、次回 WG で次年度の現地勉強会に資する「他部会に見てもらいたい場所、内容について」を協議することになっており、これがすなわち 10 年のまとめの話となるだろう
- ・山、川、海、市民の各部会の紹介は、年内に原稿を作成することとし、ページ数は A4 版で 2~3 枚とする
- ・山・川・海・市民の各部会がどんな活動をしていたのか？がテーマとなるが、これらについての執筆者(山 = 蔵治、川 = 鷺見、海 = 青木、市民 = 光岡)への依頼文案は編集会議で作成し、事務局から発信する(11 月半ばまでには依頼をかけた)
- ・矢作川流域圏懇談会 事務局 = 国土交通省豊橋河川事務所という署名での依頼とし、ML の署名を参考に
にする
- ・「市民会議」は苦悩の時代・方向性見えない時代であったが、新生市民部会、感謝祭、合同部会など流域連携の模索へ、といった内容が書かれればよい

【3】キーパーソンヒアリング ～流域圏懇談会の今までとこれから～

このヒアリング内容は、「事例集方式で矢作川流域圏懇談会の成果と課題、今後の展望についての意見を聞く」というような位置づけがよいだろう。この記事については、8月発行をめどとする「10年誌」に事例集座談会、近藤さん作成表(かこみ記事)とともに入れたいと考えている。

- ・基本的に、取材者と取材対象者が聞きあう形式をとる
- ・取材者と取材対象者は、基本的に懇談会メンバーとし、なるべく違うカテゴリの人になるようにする
- ・取材者として別途お願いする人(吉橋さん、唐沢さん)
- ・辻本先生はお忙しいので、取材対象者としてしない
- ・事例集方式でのヒアリングを実施: 下記、取材対象者(取材者)案とする
 - 山: 蔵治(唐沢)、丹羽(神本)、今村(野田)、洲崎(鈴木)、沖(近藤、中田、浜口)
 - 川: 近藤(石原)、鷺見(中田)、野田(今村)
 - 海: 青木(高橋)、鈴木(洲崎)、高橋(井上)
 - 市民: 光岡(吉橋)、井上(高橋)、山本(沖)
 - 事務局: (豊橋河川現役・OB) 溝口(近藤)、大森(近藤)、神本(近藤)
 - 事務局補佐: 石原(近藤)、中田(丹羽)
- ・1月中に取材、2月から3月に取材対象にやりとり、取材結果は年度内に完成、印刷は次年度とする(2020年度8月に発行予定のものに間に合うようにする)
- ・ヒアリング項目については、下記を念頭に、取材者の視点で書いてもらう
 - ① あなたは何をしていますか? どんなことに興味がありますか? (など自己紹介的)
 - ② あなたにとって流域圏懇談会とは何ですか?
 - ③ これからの流域圏懇談会に何を期待しますか?
- ・山は常に課題を共有しあっているがゆえに、なかなか取材に新鮮味を出しにくいかも
- ・取材費についてどうするか(前年度までに実施した事例集のヒアリングと同じようにする)
- ・依頼文案は洲崎作成
- ・急がないが、発信、その後の対応は事務局名で(豊橋河川事務所から)発信したい
- ・「6冊の事例集づくりを振り返って」を洲崎さんが作成

【5】座談会

- ・次回の第4回編集委員会では座談会の詳細を議論する
- ・岡崎の話が重要となると考えられるため、キーマンとなる沖さんをいれるべきと考えている
- ・まとめそのものは今年度中に実施予定

【6】冊子の構成

- ・「事例集の10年ふりかえり」と「流域圏懇談会の10年」については、内容が相補的なため、分けるのは難しい
- ・章立てでpdfをつくっておいて、必要に応じて分けて印刷したい人が対応すればよいという方向にしたい
- ・「全体会議冊子」: 部会長まとめ、流域圏年表、洲崎図表、近藤年表
 - A4 表紙、はじめに、目次、山川海市民4×3、事例集まとめ3、事例集団体2
 - A3 流域圏年表山川海3×2、事例集カテゴリ表2、近藤事例集年表2

■2月全体会議に提出する冊子

(A3表についてはA4に換算して計上)

- ・はじめに 1 ページ
 - ・全体の流域圏年表 8 ページ前後
 - ・各座長が執筆する各部会のふりかえり(山、川、海、市民) 12 ページ前後
 - ・事例集のふりかえり 13 ページ前後
- カテゴリ分け表、近藤さん制作年表、洲崎さんが執筆するまとめ

■8月頃発行予定の10年誌

本冊子は、間違いなく100ページは超えると思われる、製本はくるみでやる必要があるだろう

- ・上記のもの+年表に吹き出しで「ターニングポイント」の文字を入れ、囲み記事でターニングポイントの内容について紹介 ? ページ
- ・矢作川流域圏懇談会とは(組織図、矢作川流域図も入れる) 2 ページ
- ・キーマンヒアリング 19人 38 ページ前後
- ・今後に向けて 2 ページ程度?
- ・おわりに 1 ページ
- ・巻末資料 ? ページ

(以下、分けるかどうかについては、今後の編集会議で協議)

- ・事例集座談会 → 参考までに矢森協10年誌ではふりかえりの座談会A4で20ページ
- ・事例集で生まれたつながりいろいろ(寄せ書きふうにまとめる・写真も入れる) → 4ページ程度?

【7】その他

・次回の編集会議について、以下のとおりとする

12月23日(月) 15:00～

- ・事例集が作った取材先どうしのつながりについてはまとめておきたい
- ・文章ではなく、つながりの絵(相関図のようなもの)ができるとういのではないか
- ・これは座談会のあとにまとめればよいのではないか
- ・どこからも漏れてしまう実は重要な情報を座談会ですくい上げるのがよい
- ・2011年にバスツアーをやって懇談会が生まれ変わった話などがよい
- ・ターニングポイントとなったエピソード(「良かったこと」だけではなく、その前の低迷からの復活のような話を
入れるとういのではないか)
- ・コラム、囲み記事のように入れてもよいのではないか
- ・事例集取材先団体 活動カテゴリについては、たたき台第2弾としてざっと整理しているが、もう少し整理する
予定にしている
- ・今後、新カテゴリができてよいかもしれない(洲崎)

以上